

第〇学年 学級活動（２）指導案例（細案）

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動」を参照し、学級活動（２）の例を示します。

日時 令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
対象 〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 題材（２）「（例）見直そう ゲームの時間」 学級活動（２）「ア 基本的な生活習慣の形成」

題材及び「学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の内容を記述する。

- 【小学校】 ア 基本的な生活習慣の形成
イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
- 【中学校】 ア 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
イ 男女相互の理解と協力
ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材について

（１）児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

（２）題材選定の理由

題材が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。題材ごとに設定するのではなく、内容のまとまりごとに評価できるよう設定する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している。	例：～図ろうとしている。 ～取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

事前の指導、事後の指導を含む学習過程を工夫します。その際、日常生活における問題の原因や対処の方法についての話し合いを生かして、自己の課題の解決方法等を「意思決定」し、決めたことに粘り強く、自主的、実践的に取り組めるようにすることが大切です。

過程	時間	児童生徒の活動	指導上の留意点	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
事前の指導	「事前の指導」は、児童生徒の活動（アンケートやノート等の記入）や教師の事前準備等について記述する。			
	○月○日 () 帰りの会	・アンケートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに費やす時間やゲームのやりすぎで困った経験などを調査し、表やグラフにまとめる。 ・これまでの生活を振り返る時間を設け、課題への意識を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームに関する自己の生活を進んで振り返ろうとしている。 【主体的態度】〈アンケート〉
本時	○月○日 () 学級活動	・アンケートの結果からゲームのやり過ぎによる問題点を考え、改善するために話合ったことを参考にして、ゲームの約束についての個人目標を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を想起したり、友人達の工夫を聞いたりして、具体的な方法を考えられるようにする。 ・話し合いの結果を参考に、自分の課題に合った具体的な目標になるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どうしたらゲームのやり過ぎを改善できるのかを考えている。 【思考・判断・表現】〈観察〉 ○自分の課題にあった具体的な目標を決めている。 【思考・判断・表現】〈めあてカード〉
事後の指導	「事後の指導」は、児童生徒の活動や教師の支援について記述する。			
	○月中 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立てた目標や取組について振り返る。 ・友達同士で取組を確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。 ・帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを励まし合うことにより、実践の継続を図るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の生活におけるゲームの使い方への見通しをもち、自己の課題を改善しようとしている。 【主体的態度】〈めあてカード〉
「目指す児童生徒の姿」には、「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、事前の指導・本時・事後の指導の一連の活動について、評価規準を具体的に記述する。その際、事前の指導・本時・事後の指導の中で、全ての評価の観点を適切に設定する。				

5 本時について

(1) 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）

「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。

自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかなど指導のねらいを端的に書く。

(例) ゲームに集中しすぎてしまうことが学校生活に影響を与えることを知り、けじめをつけて利用することができるようにする。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	指導上の留意点 ※資料等		○目指す児童生徒の姿 【観点】 〈評価方法〉
		T 1 (学級担任)	T 2 (養護教諭)	
導入 ○分	<p>児童生徒の活動 児童生徒の活動の流れが分かるよう、具体的に記述する。例えば、問題を把握したり、原因を考えたりする活動や、解決方法の工夫や個別の意思決定の場面等を、学習過程に位置付けて記述する。</p> <p>指導上の留意点 児童生徒の活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に記述する。 「～する児童生徒に対しては、～について～することで～できるようにする」等、児童生徒一人一人に応じた手立てを具体的な指導・支援が分かるように記述する。 児童生徒の活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>目指す児童生徒の姿 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）と整合した評価規準を具体的に記述する。「十分満足できる活動の状況」について、抽象的な文言ではなく具体的に記述する。また、評価の場面は1、2箇所に絞る。</p>			
つかむ	<p>1 事前のアンケートを見て気付いたことを話し合う。</p> <p>2 ゲームのやり過ぎによる問題点を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゲームに関する学級全体の課題を確認し、課題解決への必要感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> スライドでアンケート結果を表示する。 ※集計結果 	
さぐる 展開 ○分	<p>3 ゲームをやめられない原因を考える。</p> <p>4 ゲームのやり過ぎによる体への影響を知る。</p> <p>5 ゲームのやり過ぎを改善する方法について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意志の弱さでやめられない以外にも、ゲームには、集中させる仕組みがあることを知る。 ルールを守ってゲームを利用することの大切さを説明する。 やり過ぎないようにするにはどのようにすればよいか、自分の経験を想起したり、友達の工夫を聞いたりして、具体的な方法を考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 視力の低下や睡眠不足が学力にも影響することなどを説明する。 ※体への影響に関する掲示資料 	<p>○どうしたらゲームのやり過ぎを改善できるのかを考えている。 【思考・判断・表現】 (観察)</p>
見つける				
終末 ○分	<p>6 話し合ったことを参考にこれからの生活におけるゲームの約束について、個人目標（内容や方法など）を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの結果を参考に、自分の課題に合った具体的な目標になるよう、助言する。 数名に発表してもらい、目標の修正や実践の参考にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い必要に応じて具体性のある目標が立てられるよう助言する。 ※学習カード 	<p>○自分の課題に合った具体的な目標を決めている。 【思考・判断・表現】 (めあてカード)</p>
決める				

6 板書計画